

八尾市立小・中学校適正規模等審議会 第2回会議 会議録

開催年月日	平成21年1月27日(火)	
開催場所	八尾市役所本館8階 第2委員会室	
開催時間	午後7時00分	
出席委員	木下 会長 大野 副会長 加仲 委員 鈴木 委員 武田 委員 野村 委員	三藤 委員 市原 委員 小林 委員 岡 委員 根屋 委員
出席職員	岡村教育次長兼学校教育部長 浦上教育推進担当部長 濱野教育委員会事務局理事 杉分学校教育部次長兼総務人事課長 中山学校教育部次長 田中教育政策課長 橋本施設管理課長	藤井学務給食課長 柿並指導課長 吉岡教育サポートセンター所長 渡邊人権教育課長 網中学校教育部参事 滝瀬教育政策課指導主事 生田教育政策課主査

【会長】 ただ今より八尾市立小・中学校適正規模等審議会第2回会議を開催します。まずはじめに、新たな審議会委員を事務局より紹介願います。

【事務局】 今回、新たに委員を委嘱いたしました市民委員の根屋雅光様です。根屋様には、当審議会市民委員の公募におきまして、受付期間中に電子メールで応募いただいたにもかかわらず、募集時に記載してあったメールアドレスに間違いがあったため、応募書類等が受け付けされませんでしたので、あらためて選考委員会を開催し、選考を行い、このたび選任させていただいたところでございます。根屋様をはじめ、委員の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしましたことをお詫び申し上げます。今後、このような事象が生起しないよう、業務のチェックの徹底を図ってまいりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

【会長】 次に本日の資料について、事務局から説明願います。

【事務局】 資料確認。

【会長】 資料について何かご質問はありませんか。

【全委員】 質疑なし。

【会長】 前回の会議で当審議会に諮問された事項について、改めて確認しておきたいと思っております。1点目は学校規模等の適正化についての基本的な考え方に関することで、特に八尾市独自に望ましい学校規模の基準を策定していくということが当審議会に諮問されています。2点目は学校規模等の適正化について

の方策に関することです。

本日は、諮問事項の1点目に関して、学校規模等の適正化について検討する際の視点を中心に審議を進めたいと思います。なお、前回も確認したことでありますが、個別の学校についてではなく、八尾市全体として学校の適正規模をどう考えるかということが審議の課題ですので、その点もよろしく願いいたします。

それでは、学校規模等の適正化について検討する際の視点を考える上で、現状を知る必要があるかと思っておりますので、学級数の多い学校と学級数の少ない学校の現状と課題について事務局から説明していただき、その後、意見交換したいと思います。まずはじめに、学級数の多い学校の現状と課題について、事務局から説明を願います。

【事務局】 はじめに学級数の多い学校のよい点についてご説明いたします。学級数の多い学校では、児童生徒にとっては、社会性や協調性等を育成しやすい、切磋琢磨する機会が多い、学校行事が活発になりやすい、多くの先生と接する機会に恵まれることなどがよい点として挙げられます。また、教職員にとっては、相互に学び合う機会が多い、調和のとれた校務分掌が確立でき教職員1人あたりの負担が緩和されやすいことなどがよい点であると考えております。

次に、学級数の多い学校の課題についてご説明いたします。1点目としては、図書室やコンピュータ室などの特別教室をはじめ少人数指導のための学習室等の使用において制約を受けること。2点目として、運動場面積が狭いために、授業や運動会、休み時間の活動等が制約されること。3点目として、校舎の延床面積が狭いために、学年単位での学習活動が制約されること。4点目として、水泳指導やクラブ活動、校外学習など学校行事において制約を受けること。最後に児童生徒にきめ細かな指導を行いにくいことなどが課題であると考えております。

【会 長】 今の説明について質問はありませんか。

【全委員】 質問なし。

【会 長】 それでは意見交換をしたいと思います。

【委 員】 資料にあることは、全くそのとおりだと推測します。ただ、一方で、児童生徒や保護者、先生方がこういうことを問題として感じているのか疑問に思います。実際には意外と満足している方が多いのではないかと思います。ですから、これはこれでよく分かりますが、生の声はどうかと少し疑問に思いました。

【会 長】 生の声を話していただける委員がいらっしゃいましたらお願いします。

【委 員】 確かにこの資料に示されている問題は本校でも痛切に感じています。特に、本校の場合、空き教室が少なく、例えば6年生で少人数指導するとなると、他の学年ではできません。本校でもこのような状態ですので、もっと大きい学校では苦労されていると思います。

また、今、冬のかげ足をやっていますが、全校で走らせると児童どうしぶつかって危ないので、低学年と高学年とに分けて隔日で実施しています。

教育委員会で以前に保護者や教職員からアンケートをとっていますので、その結果も出していただいたら生の声も分かるのではないかと思います。

【会 長】 他にございませんか。

【委 員】 教職員数が多いと児童にとって接する機会が多くなるとありますが、教師が多いだけではなく、教師集団の年齢構成上のバランスがとれているのかということも無視できない問題だろうと思います。実際、学級数の多い学校では、年齢構成上のバランスがとれているのか聞かせていただきたいと思います。

【事務局】 八尾市全体の年齢構成としては、30代、40代の層が大変少なく、50代後半が多いという状態です。またここ数年、毎年100人近くの新規採用職員が入ってきており、若い層が増えつつあるという状態になっています。

学級数の多い学校は、30代、40代は同じように少ないですが、若い層も年齢の高い層もあり、他の学校に比べるとバランスがとれていると思います。

【会 長】 1つの視点として、教師の年齢構成のバランスを考える必要があるのではないかというご意見ですね。他にご意見はありませんか。

【副会長】 例えば1学年6学級程度の大規模な小学校では、学年で発表会を設けて互いの意見を聞き合ったりする活動を全員でやろうとするのは難しいのでしょうか。先生方にとって指導の幅を狭めることになっているのかお伺いしたいと思います。

【事務局】 学級数の多い学校では、発表会など、学年全員の児童生徒が一堂に会して学習を行うことに制約を受けている学校があります。また、校内の学習だけではなく、校外学習においても制約を受ける場合があります。

【副会長】 1学校当たりの児童数が多いと、児童にとっての出会いの効果も制約があり、先生方の指導面でも制約が出やすいリスクがあるということですね。

【委 員】 女子職員のトイレが少なく健康を害しているとありますが、労働安全衛生規則等の規定が満たされているのかどうか、検討されたのでしょうか。

【事務局】 大規模校におきましては、女子トイレの数が少ないという傾向にあり、これぐらいあった方がよいという数字を下回っている学校も確かにあります。

【会 長】 他にございませんか。ないようですので、次に学級数の少ない学校の現状と課題について事務局から説明願います。

【事務局】 はじめに学級数の少ない学校のよい点についてご説明いたします。児童生徒にとっては活躍や登場の機会が多い、児童相互や教職員との人間関係が深まりやすいこと等がよい点として考えられます。また教職員にとっては、きめ

細かな指導を行いやすい、運動場をはじめ図書室、コンピュータ室等、特別教室の使用において制約を受けないこと等がよい点であると考えております。

次に、学級数の少ない学校の課題についてご説明いたします。1点目として、クラス替えができないことを初め、切磋琢磨する機会が少ない、社会性や協調性を養いにくいなど、集団づくりを行う上での弊害があること。2点目として、学級分割など柔軟な指導形態を取りにくいことをはじめ、クラブ活動が活発化しにくい、遠足や修学旅行の行き先が限定される等、学習指導や学校行事が活発になりにくいこと。3点目として、教員にとっては、校務分掌が多く、児童生徒を指導する時間が制限される、教職員間の相互研究や相互連携等が行いにくいこと。最後に、学校への配当予算が十分でなかったり、修学旅行や校外学習、学校教材費等における保護者負担が高額になったりすること等が課題であると考えております。

【会 長】 それでは、何か質問がありますか。

【副会長】 学級数の少ない学校のよい点として、1人ひとりの児童生徒への指導が行き届き、きめ細かな指導が行いやすいとありますが、これは小規模校であれば、児童生徒数が少ないので、教職員全員が子どものことを把握しやすいという意味で、きめ細かいと言っているのか、その意図をお伺いしたいと思います。

【事務局】 学級数の少ない学校では児童生徒数が少ないことから、教職員が全ての児童生徒に指導が行き届くという意味でございます。

【会 長】 これも学級数の多い学校と同じように、具体的話はどうでしょうか。

【委 員】 私が勤務している中学校は各学年が2クラスです。きめ細かな指導を行いやすいという点は、確かにやりやすいと思います。教師と生徒との人間関係も密になりますので、担任だけでなく学年の教員全員が生徒を把握することができます。また情報交換しやすい状況になっています。

ただ、集団が小さいため社会性や協調性を養いにくいと書かれていますが、これは中学校の場合は逆だと思っています。特に協調性の面では、たくさんのクラスがあれば、その学級の中で位置付かなくても他のクラスに友達がいるわけですが、クラスが少ない場合は、そのクラス、またその学年集団でやっていかなければなりませんので、みんなに合わせていくという大人としての感覚も身につけていくと思います。だから、このことについては、小学校の場合はまた違ってくると思いますが、中学校としては少し疑問に思います。

欠点としましては、人間関係が密な中で育っていきますので、卒業して社会に出たときに、厳しい荒波に耐えていけるのかという思いはあります。高校へ行っても、中学校のときのような生徒と教師の関係が作れていくのかとか、違った人間関係の中で協調してやっていけるのかといった心配が小規模校の場合はあるかと思っています。

【委 員】 私が住んでいる校区の学校は学級数が少ない学校です。ですから書かれている課題は、実感としてはあります。その一方で、1学年30名ぐらいですので、活動する上ではかなり機動性がある、学校の外に出れば、社会性や協調性

を養うことができると思います。

ただ、いじめなどの問題があったときに、クラス替えができないのは大きな問題だと思います。また、保育所から中学校まで同じクラスで生活しますので、子どもだけでなく保護者も関係が崩れてしまうと難しい面があります。

【委員】 社会性・協調性に関する意見については、若干受けとめ方が違います。ここで問題にすべきなのは、意見が合わないような人達の集団の中で社会性や協調性をどのように身につけていくかという問題であると思います。そういう視点で考えれば、学級数の少ないというのは確かに問題があると思います。

【委員】 この審議会は、財政上の問題があって設置せざるを得なかったのかどうかお聞きしたいです。また、学級数の少ない学校と比較的大きな学校の両方に勤めておられた委員がおいでなので、子どもの教育上どちらがよいと思われるのかお聞かせいただきたいです。それから、教育委員会の説明が我々の意見を誘導しているように感じられます。例えば、資料の中でよい点が少なく、課題ばかり書かれている点もそのように解釈できます。最後に、このような問題が出てくるまで教育委員会は何をしていたのか見解をお聞きしたいです。

【事務局】 まず1点目の財政的な問題のご指摘でございますが、前回の会議で審議会の設置目的について「教育の機会均等と教育水準の維持向上を図るとともに、教育行政の効率的運用を図る観点」と申し上げております。教育行政も税金で運営されていますので、お金の使い方については、効率的に使っていかねなければならないということから、効率的な運用を図る必要があると説明させていただいたものでございます。2点目の議論を誘導しているのではないかとのご意見ですが、私どもとしましては議論が活発になるようにと前回のご指摘に従いまして資料を提供したものでございます。それから、今まで何をしていたのかというご意見ですが、これは私自身も感じておるところであり、従前から認識をしておりましたが、ここまでもってこることができなかったところが教育委員会の弱さであったと感じております。従いまして、この問題につきましては、審議会を設置して皆様のご意見をいただきながら、この遅れを取り戻していきたいと考えております。

【会長】 それでは、ここで学校の適正規模を考えるときに、どういうことを念頭に置いて、どういう視点から考えたらうまくいくだろうかということ意見を交換できればと思いますので、よろしく願いいたします。

【委員】 国が定める基準の根拠を教えてください。また、国が定める標準的な学校ではこのような課題はないと理解したらよいのでしょうか。

【事務局】 国の基準の根拠につきましては、本日正確にお答えいたしかねますので、次回の審議会で回答させていただきたいと思っております。

次に、今回の資料作成に当たりましては、国の基準に該当する学校からも資料を収集して比較検討する中で作成しております。従いまして、12～18学級の学校では、資料にあげたような課題はないとご理解いただきたいと思います。ただ、18学級を超える学校や11学級以下の学校の中には、資料に

あげております課題の一部が表れてくる学校がございます。学級数が多くなればなるほど、少なくなればなるほど課題が出てくるとご理解いただきたいと思います。

【委員】 全国では、第二次ベビーブームのときと比べると、小中学生ともに大きく減少しています。八尾市の場合もこの全国的な減り具合と同じような状態なのかどうか、資料がありましたら教えてほしいと思います。

【事務局】 第1回会議の資料に、小中学校の児童生徒数の推移を、昭和24年を起点としてグラフ化しており、第二次ベビーブーム以降の推移もお示ししておりますので、よろしく願いいたします。

【委員】 今、学校の統合が全国的にかなり展開されていますが、学校統合を促進あるいは支援するための補助金等は、文部科学省は出していません。自治体が要求すれば国から支援が得られるのかどうか、検討されてもいいのではないかと思います。

【委員】 先ほどの私の質問で、12～18学級であれば課題がないということであれば、12～18学級でよいということになるのではないですか。

【会長】 それも1つのご意見だと思います。学校規模の視点をどう決めるかということで、国の基準はこう出ているけれども、八尾市にはいろんな教育事情や今までの伝統といったこともあるので、この基準だけでいいのか、他の視点は要らないのかが今日の議題です。だから、「国基準でいこう。」というのも1つの意見だと思います。

【委員】 全く同感で、12～18学級の学校であればすばらしい学校だというのには疑問を感じます。私は、そんなはずはないと思います。真ん中がよいということは絶対にあり得ないと思うんですが、皆様のご意見はどうでしょうか。

【副会長】 事務局からの説明の大事なポイントは、規模が大きくなればなるほど制約が出てきやすい側面がある。また小さくなればなるほど課題も多くなるということだと思います。その条件が本当にどうなのかを吟味するのが私たちの仕事になると思います。

真ん中になればよいのかというのは、私もやはり違うとは思いますが、そこで出てくる問題は、例えばその学校の先生の力量の問題や、その学校が持っている環境条件の問題であって、それは別の場で議論する話だと思います。真ん中になればどうなのかということよりも、多くなればどうなのか、あるいは少なくなればどうなのかという議論ではないかと思います。

視点ということでは、大きい学校と小さい学校では視点の取り方が違ってくると思います。規模が大きい場合は、学校の施設が有限であることから、それを現実的にどのように利用できるのか、そこで制約が大きければ子どもの学習権に侵害が及ぶのではないかとといったところから論じていく必要があると思います。その施設面の条件は、学校が小さくなればなるほど解消されるはずですが、今度は効率性という面ではどうなのかという問題が出てきて、

小さい学校ではそういう議論をしていかないといけないと思います。

また、例えば小さい学校は集団づくりの問題等もあるとのことでしたが、地域の力等である程度カバーできるかもしれません。そういう努力を行うことで、その地域で新しい機軸の学校教育が展開できる可能性が出てくるかもしれません。場合によっては、そういう小さい学校を残していくということもあり得ると思います。

教育の場合、効果的というのは、単に真ん中に合わせれば最大効果になるとは限らない場合もあるので、真ん中に集めればどうかということではなく、大きい、また小さいことから問題が顕在化しやすいという中でどうなのかという論点の軸を作っていくべきだと思います。

【会 長】 これは複合的に考えないといけない問題で、規模の問題なのか、規模と施設の関係の問題なのか、それとも教員と子どもの関係の問題なのか、いろいろな要素が教育にはあると思います。その中で、適正規模を考えていくときにこういう視点だけは押さえましょうという、その視点がきちんとできあがればいいなと思っています。

【委 員】 私が以前勤めておりました中学校は、各学年が概ね5学級でした。また、現在勤務している学校とその前に勤務していた学校は各学年が2学級ずつです。それぞれの学校にはそれぞれ長所も短所もあります。ですから、一概に学級数だけで、「よい学校だ。悪い学校だ。」と感じたことはありません。

仲間づくりの観点からは、学級数が少ないほど仲間意識は高まります。だから、学校行事をやっている、小規模校の方がまとまりを感じました。ただし、大規模校のときも、特に体育大会の組立体操は生徒全員で作りに上げているという雰囲気があり、人数だけではないという感じもします。ただ、小規模校の場合、たくましさという点では、外へ出ていったときに大丈夫かなという心配な点は持っていました。

それから、学力向上の面から言いましたら、学年のクラス数ではなく、1クラスの人数だと思っています。今の中学校の3年生は1クラスが30人強ですが、2年生、1年生は各クラスがほぼ40人です。やはり教える側からすれば、3年生の方が当然教えやすいですし、指導も行き届きやすいので、学力向上の面からも高まりはあると思っています。

また、クラス数が少ない場合、臨機応変に柔軟な対応ができます。例えば放課後に補充学習をするときにも効率的に行えますし、効果も高められると思います。学力向上という観点からするとクラス数の少ない方がより効果が望めるのではないかという感想を持っています。

【委 員】 学力をどれだけ高めるかという視点は、中心的な課題ではないとしても、その視点を抜いた論議はおかしいのではないかと思います。どの規模ならば学力を伸ばしやすいかという視点は抜かしてはならないと思います。

【委 員】 我々が審議している「規模の適正化」というところが、やはり受け入れにくい部分が私にはあります。どの規模がよいかというと、多分永遠にまとまらないのではないかと思います。ですから、議論するのであれば、規模別の適正化策を議論する方が、建設的ではないかと思っています。

【委員】 1クラスに何人、1学年に何人であれば先生が生徒の顔が分かるかという視点もあると思います。個人的には、中学校で言えば1学年4学級が限度ではないかと思います。小学校でも先生が覚えられる数というのを1つの視点にして検討してはどうかと思います。

ただ、子どもの教育環境ですから、この審議会では子どもを中心にすえ、子どもにとってよりよい教育環境を作ってあげられる人数・学級数から適正規模を考えていくべきだと思います。

私としては、統廃合ありきではなく、子どもの教育環境を守るのであれば、やはり35人学級にしてもらった方がきめ細かく教育ができるわけですので、それを実現してほしいですし、それで学校の大きさが足りなければ学校を建ててもらいたいし、先生の数も増やしてもらいたいと思います。しかし、今の容量の中に入れようと思えば、現状のまましかないので、八尾の教育環境がどのようになればいいのかを意見として出していただきたいと思います。

私の考えは35人学級で、中学校であれば1学年4クラスがベストで、先生も楽な状況が生まれてくるのではないかと思います。これはこれから先2年間かけて議論するわけですから、よりよい意見がもっと出てくると思いますので、そういった視点から議論を深めていったらどうかと思います。

【会長】 適正規模だけを論じるのではなくて、もう少し具体的なことを議論した方が生産的な話ができるんじゃないか等、いろんな意見も出てきました。

学級数の少ないところ、多いところの課題を出していただく中で、皆様のご意見を聞いていますと、学力にしろ、協調性にしろ、「子どもの育ちにとってよい環境を作ってほしい」というのが、第1の大きな視点ですね。具体的課題は多々あるとしても、子どもの育ちにとってよい環境を作るという視点で規模の問題は考えなければならないのではないかと、皆様の方から出た大きな視点ではないかと思います。

その中でハードとの関係を考えていくわけですが、だからそういう意味では、今までの校区あるいは地域との関わり、伝統といったことを大事にしながら、規模の問題も考えてみたいという点も出てきたのではないかと思います。

一方で、財政の問題があるというご指摘がありましたように、教育行政の問題においても効率的な運用の視点というのが、やはり今要求されていて、それに全面的に縛られることはないとしても無視はできないだろうということが、考えていく視点で重要なのではないかと思います。そうなれば、八尾の教育を行う上での目標というものも定められていますので、それは大事にする必要があるといったことも出てきたりします。

ということで、次回も規模をどのように考えるかということで議論を深めたいと思います。先ほど宿題が出ましたように、国がなぜこれを基準としているのか、その根拠も出てくると思います。八尾の学級数も資料に出ていますし、八尾で適正規模はどれぐらいに考えていくのかという議論を次回行います。また視点につきましても、ご意見があれば出していただけたらと思います。これで一旦の中間のまとめにしたいと思いますが、その上で、ぜひ言っておきたいということがありましたらどうぞ。

【委員】 最終的には、12~18とか20~30といった、数を決めるのですか。数ではないというのもあり得るのですか。前回の説明でも、「ここからここは適正で

す」というような話がありましたが、違和感があります。そうではなくて、1クラス40人でその学校がどれだけのクラスをまかなえるのかというのが、その学校の適正だという決め方もありますよね。例えば、30人学級で3クラスになるならば、それがこの学校の適正だということもあり得るんですか。それとも、八尾は全体で12～18が適正なんですというようになるんですか。

【会 長】 どういう結論が出るかは、審議が始まったばかりですのでまだ何とも言えませんが、多様に考えながらどういうふうにまとめたらいいかも議論できればと思っています。

【委 員】 次回に間に合えば調べていただければありがたいと思いますが、地域コミュニティとの関係は無視できませんので、コミュニティスクールとして京都市立御所南小学校が有名ですが、実際にどういう論議がされ、どんな学校になっているのか、それに関わる資料があれば準備していただきたいと思います。

【会 長】 他にございませんか。ないようですので、次回の日程について事務局から提案願います。

【事務局】 日程提案。

【会 長】 今、提案がありましたように、次回会議を3月23日（月）午後7時から行いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

本日、ある程度視点の絞り込みをしましたので、次回は、望ましい学校規模、あるいは学校規模の定義についてどう考えるかに焦点を当てて議論をしたいと思います。今日の続きの意見も出るかと思いますが、それも含めて議論をしたいと考えていますので、よろしく願いします。

その上で、準備してほしい資料が既に2つ出ていますが、他に、議論を進める上でこういう資料が欲しいというものはございませんか。

【委 員】 アンケートのようなもので、先生方や保護者、児童生徒に自分の学校について規模的な不満をどう考えているのか聞かないと、我々の意見だけでは足りないと感じます。

【事務局】 昨年10月に、学校規模等について保護者と教職員を対象としたアンケートを実施しましたので、その結果をまとめたものを次回、資料として提出したいと考えております。

【委 員】 在日外国人について、地域的にほぼ固定されているのですか。現在、外国人の人数の多い学校が、今後も引き続き多い学校であるのか、それとも変動の可能性あるのかどうか、その点はどうでしょうか。

【事務局】 詳しい点につきまして、次回の会議で説明させていただきたいと考えています。

【会 長】 それでは、次回、説明願います。これで第2回の会議を終わります。